

奈の良

第11号

日本一大きな村に隠された魅力：十津川村

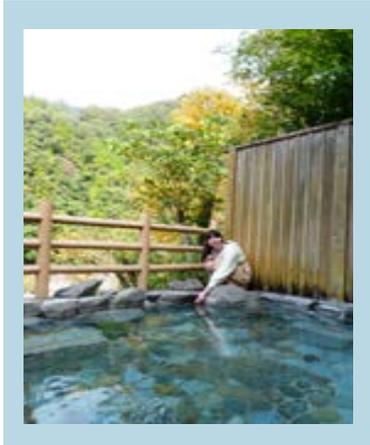


昔の十津川村と今の十津川村
～温泉、食事そして歴史を感じられる村～

自然とふれあう
～定番の人気スポットから穴場まで～

昔の十津川村と今の十津川村:～温泉、食事そして歴史を感じられる村～

十津川村は、奈良県の最南部にある日本一広い村で、面白い場所がたくさんあります。取材に行った日は、まだ紅葉が始まったばかりでしたが、緑と赤のコントラストも綺麗でした。この記事では湯泉地温泉、十津川村歴史民俗資料館、道の駅十津川郷を紹介します。



湯泉地温泉(とうせんじおんせん)でリラックス

十津川村は温泉で有名なのを知っていますか?十津川村には18軒の温泉宿があり、そのほとんどは村の中心部にあります。湯泉地温泉には硫黄が多く含まれているので、切傷、やけど、筋肉痛などに効果があるといえます。

「湯泉地温泉」では、露天風呂につかりながら、素敵な大自然が楽しめます。脱衣所には、温泉の源泉の説明と入浴についての注意が表示されています。説明は日本語ですが、外国人はイラストから理解することができます。

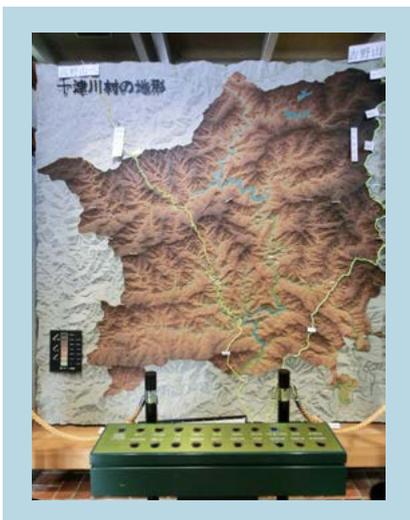
浴場に入った瞬間に、硫黄の匂いが漂ってきました。屋内の浴槽も露天風呂も、設備は全体的に綺麗です。手でお湯をすくってみました。ちょうどよい湯の温もりに幸せを感じました。村の静かな雰囲気に加え、温泉と大自然のお陰で、とてもゆったりとした時間を味わうことができます。温泉が大好きな私にとって、この空間は最高です。

スタッフの方によるとお客様は海外からは少なく、多くは地元の方だそうです。大阪、京都などからも時々来られるそうです。みなさんも、湯泉地温泉で是非ゆっくり休んでみてください。



公衆浴場「泉湯」—湯泉地温泉—

- ・所在地:〒637-1332 奈良県吉野郡十津川村武蔵23
- ・営業時間:AM10:00～PM9:00
- ・休業日:火曜日



十津川村歴史民俗資料館:十津川村の歴史をたどる

私は歴史や昔の人々の生活に興味があるので、十津川村歴史民俗資料館を訪ねました。実際、歴史から学ぶことはたくさんありました。

資料館は役場前の高台にあります。入館するとすぐに大きな十津川村の地形図があります。この地形図からは、十津川村には、ほとんど平地がなく、現在ある多くの集落は河川の周りに集中していることがわかります。他にも十津川村出身の有名な人物や昭和時代の十津川村の人々の暮らしの展示等とても充実した展示に驚きました。

1.奈良県の洋画家、絹谷幸二氏の絵画(原画)

明治22年(1889)の恐ろしい大水害によって、十津川村は壊滅状態になってしまいました。『十津川に昇る太陽』という絵は十津川村置村100年周年を記念して作成されたもので、大水害のため北海道へ移住した十津川村の人々の願いや夢を伝えています。この絵を見ると、十津川村民の復興への希望が感じられます。

2.新十津川町の起源

奈良県にある十津川村と北海道にある新十津川町には深い関係があります。明治22年の大水害のために、一部の十津川村の人々は、新しい住みかたと仕事を見つけるため政府から用意された北海道の未開の地に移住するよりほかありませんでした。船で移住した村人は当時の村の人口12,862人中2,667名にもなりました。北海道へ移った村人は故郷を想い、自分たちの住む新しい北海道の地を新十津川町と名づけました。



絹谷幸二氏の絵画:「十津川に昇る太陽」

移住は4回に分けて行われましたが、明治23年(1890)の最初の移住者の生活は特に辛かったと記録にあります。北海道はとても寒く、未開発の土地が提供されただけで粗末な掘立小屋に住んでいたからです。しかし、1万5千坪の土地は開拓した分だけ自分の財産になるという制度であったため、人々は荒地を積極的に開拓しました。食糧も少なく、すぐ収穫できる大根やソバを作ってしのいだそうです。

3.坂本龍馬と中井庄五郎の関係

坂本龍馬の名前を聞いたことがありますか?江戸時代の幕末に活躍した侍です。1867年の坂本龍馬が仲間の中岡慎太郎とともに、討幕を企てていたところ京都の近江屋で暗殺された事件は有名です。

十津川村の中井庄五郎という郷土は、中岡慎太郎が率いる陸援隊の宿舎で暮らしていたこともあり、龍馬と出会いました。資料館には、龍馬から中井に宛てられた手紙があります。この手紙には、龍馬は中井と懇意にしており、中井に「青江吉次」作の刀を贈ったとあります。刀自体は見つかっていませんが、この手紙から龍馬との繋がりがあったことが分かります。当時は刀はステイタスの象徴だったので、十津川村の中井は龍馬にとって大切な人だったと想像ができます。

新十津川町のことや十津川村と坂本龍馬との関係について、資料館で実際に展示を見たり、職員の方に詳しいお話をうかがうことで、より深く知ることができました。

十津川村歴史民俗資料館

- 所在地:〒637-1333 奈良県吉野郡十津川村小原
- 開館時間:午前9時~午後5時(入館は4時まで)
- 休館日:火曜日・12/29~1/3



道の駅十津川郷:美味しい食事とオリジナルのお土産

おもしろい商品がたくさんある道の駅十津川郷を紹介します。コンパクトな売場ですが、地元の野菜や食べ物から特産品の木材を加工した割り箸などの商品まであります。内部は木目調で木のあたたかさを感じます。ゆっくり買い物をすることができます。

道の駅は地下2階地上2階の4階建てです。まず、1階を見てみましょう。十津川村産のハチミツ商品やキノコなどの新鮮な野菜や果物がたくさんあります。地元料理の入った手作り弁当も買えますよ。私が一番感動したのは、新十津川町の商品があったことです。新十津川町の「とうきびチョコレート」と「メロンアイスバー」は特に美味しいです。ここでも新十津川町との交流が感じられますね。

十津川村は木材でも有名なので、うちわ、キーホルダーなどの雑貨も販売しています。その他にも、道の駅オリジナルの「ルート168」のグッズを買うことができます。

2階には、「そば処行仙」があります。開放感のある店内です。メニューは、そばとうどんが多く、特にお店の手打ちそばがおすすめです。他にも親子丼などのメニューも豊富で、美味しくて、私のおすすめは、親子丼です。チキンと卵の組み合わせは泣くほど美味しくて、ご飯はふわふわしていました。量もたっぷりだったので、大満足でした。食べながら、大きな窓から見える素敵な風景を楽しむことができます。

道の駅の前には無料で入れる源泉かけ流しの足湯もあります。足湯に入ると、疲れもすっきりいやされました。長旅に足湯はとてもよいと思います。まず道の駅で新十津川町の「メロンアイスバー」を食べ終わったら、足湯でゆっくり過ごすのが私のおすすめです。

十津川村には様々な素敵な所があります。みなさんも、是非十津川村に行ってみてください。



道の駅「十津川郷」

- 所在地:〒637-1333 奈良県吉野郡十津川村大字小原 225-1(十津川村役場の隣)
- 営業時間:午前8:00~午後5:30(3月~11月)
午前8:30~午後5:00(12月~2月)

自然とふれあう

定番の人気スポットから穴場まで

十津川村は、奈良県の最南部にある、日本一大きな村です。電車が通っておらず、観光の交通手段は車または路線バスとなりますが、自然がとても豊かな村です。今回は、十津川村の美しい自然景観を満喫できる谷瀬の吊り橋と清納の滝を紹介します。また、車で観光が難しい方のために、路線バスで十津川村を楽しむ方法も紹介します。

谷瀬の吊り橋 — スリル満点の日本有数の長い架け橋



十津川村には渓谷に沿って流れる熊野川を渡るため吊り橋が多くあります。中でも、上野地と谷瀬を結ぶ「谷瀬の吊り橋」は、高さ54m、長さ297.7mで、日本有数の長さを誇ります。昭和29年(1954年)、生活の便のために村人の力で作ったこの吊り橋が今日まで使われつづけています。

十津川村の北部に位置する谷瀬の吊り橋は、まるで十津川村の関門のような感じがします。平成29年(2017年)には、年間17万人近くの観光客がこの吊り橋を訪れるほど、十津川村の人気スポットです。過去には、通学路としても使われていました。現在は、スクールバスが谷瀬地区へ入るため、通学路としては利用されていませんが、昔から村人の生活の助けとなったのは確かのようにです。

午前中の早い時間にもかかわらず、観光バスで来たたくさんの観光客が吊り橋を渡っていました。私も勇気を出して橋へ一歩踏み出してみます。意外と丈夫そうなので一歩一歩進んでみますが、下を向くと、橋板の軋む音がリアルに聞こえてきて少し怖くなりました。



しかし、視線を上げると目の前には、色づき始めた秋の山と、上から眺められる渓谷や流れる川などの絶景が広がっています。青い空と色づき始めた紅葉を空中で見ると、とても爽快な気持ちになります。橋の下に見える河原にはキャンプ場もあるので大自然の中で過ごすこともできます。皆さんも谷瀬の吊り橋で大自然とスリルを味わってみるのはいかがですか。

谷瀬の吊り橋を楽しむコツ!

①20人以上同時に吊り橋を渡るのは禁止されています。また、吊り橋の上

で走ったり、無理やり揺らしたりすると危ないのでやめましょう!

②谷瀬の吊り橋の村営駐車場のすぐ近くには、観光案内所がありますので、観光パンフレットを自由に取ることができます。また、食事や特産品なども販売されていますので、小腹が空いたら立ち寄って休憩するのはいかがですか。お茶が無料で提供されています。



十津川村
観光協会
ホームページ



清納の滝 — 近くで魅力を感じられる滝

十津川村役場産業課観光グループの職員の方に、役場から清納の滝まで車で案内いただきました。くねくねした小さい道を車で10分ほど走ると、清納の滝の案内看板が見えます。車を止め、林の中を少し歩いて階段を降りると、まるで別世界のような光景が目の前に広がります。広い滝つぼと水量がとても迫力があります。



*こんなに近くで滝を見ることができます！

滝に近づいてみると、気持ち良い風が吹き、滝の水が頬に当たるととても涼しく、心が洗われるような気持ちになります。遠くから見たときの景色とはまた違い、水の色がとても神秘的です。今回は、十津川村の穴場として訪れましたが、役場の方いわく、2017年から十津川村の宣伝ポスターにも取り上げられている滝ですので、今後訪れる人が多くなるかもしれません。

①落差は高くないですが、広い滝つぼと豊富な水量を誇る滝です。柵がないので滝のすぐ近くで滝の魅力をカラダいっぱいを感じる事ができる十津川村の穴場です！

清納の滝を楽しむコツ！

②清納の滝に向かう途中に、高い絶壁から静かに落ちてくる細い滝があります。展望台が設置されて、役場の方によると、滝には不動滝という名前がついているそうです。迫力のある清納の滝とは違う静かな滝の魅力も楽しんでみるのはいかがでしょうか。

- ・清納の滝：〒637-1442 奈良県吉野郡十津川村大字高滝
- ・観覧時間：自由観覧 / 入場料：無料



十津川村
観光協会
ホームページ



十津川村を観光するもうひとつの方法！

八木新宮特急バス — 日本一長い路線バス

十津川村へのアクセスは車だけではありません。車での観光が難しい方のために、日本一長い路線バス、「八木新宮特急バス」で十津川村を楽しむ方法をご紹介します。



「全長166.9km、停留所の数は167、高速道路を使わない路線では、日本一の走行距離を誇る路線バス、それが八木新宮特急バスです。道中には、日本一大きな村といわれる十津川村、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を駆け抜け、知る人ぞ知る温泉地もたくさんあります。世界遺産でハイキングしたり、温泉で疲れた体を癒せるスローなバスの旅はいかがでしょうか？」

～奈良交通株式会社ホームページより抜粋～

八木新宮特急バスでの旅を楽しむコツ！

2018年9月、十津川温泉バス停待合所に「足湯」ができました！バスの旅の途中に足湯でちょっとした癒しの時間を味わってみるのはいかがでしょうか？

- ・時間：7:00～18:30 (毎日)

八木新宮特急バスについてのもっと詳しい情報はこちらをご覧ください。
(奈良交通株式会社ホームページ)



な ら 「奈の良」とは

こんにちは。

私たちは奈良県国際課に勤務する国際交流員です。
奈良県と海外の交流を深める架け橋となるべく、日々、国際交流業務に従事しています。

『奈の良』は、外国人の目線で見えた奈良県の魅力を県民の方々や外国から来られたお客様に紹介するため、私たちが奈良県で見つけた魅力や面白いことについて自ら取材し、記事にしたものです。本誌が奈良県に興味を持つきっかけや外国人が感じる奈良の魅力を発掘する手がかりとなれば嬉しく思います。

編集後記

クランシー・ケイティ（写真左）

取材で初めて十津川村に行った私は、十津川村の自然に感動しました。取材は紅葉の時期だったので、特に、山と木の景色は大変美しく、葉のオレンジ色と緑色の組み合わせが忘れられません。また、温泉はとても良かったです。湯の温度は完璧だったので、ゆっくり露天風呂に入りたかったです。十津川村には魅力的な観光スポットが多いので、みなさんもぜひ経験してください！

南 炫汀（写真右）

奈良は美しい自然と長い歴史を誇る県ですが、今回十津川村を取材して、今まで私が知っていた奈良は、奈良県のほんの一部だったということに気づきました。都市部からのアクセスが容易ではない十津川村ですが、それだからこそ訪れたときに村の美しさや魅力に感動があふれてきます。ぜひ十津川村に足を運んで魅力を堪能してください！

今回取材した場所

十津川村

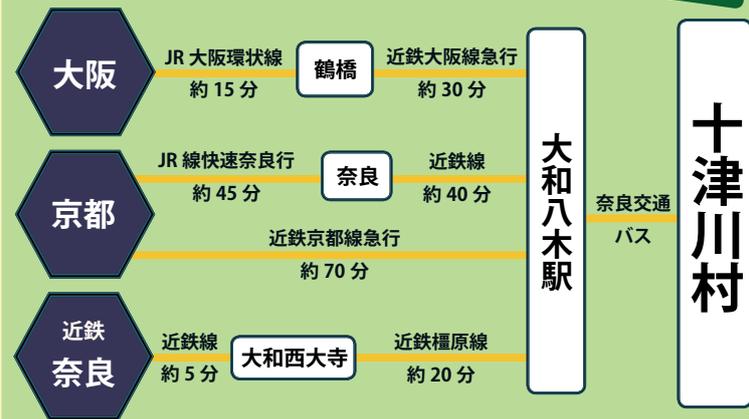


Special Thanks

今回の取材にあたり御協力いただいた湯泉地温泉、歴史民俗資料館、道の駅「十津川郷」、十津川村役場、奈良交通株式会社、十津川村の方々にお礼申し上げます。

アクセス

電車を利用する場合



車を利用する場合

大阪から：約 2 時間 20 分 (168 一般道路利用)
京都から：約 3 時間 (168 一般道路利用)
奈良から：約 2 時間 10 分 (168 一般道路利用)

『奈の良』

発行元：奈良県知事公室国際課

発行：平成 31 年 3 月

本誌に関するご意見、ご質問等はこちらへご連絡ください。

〒 630-8501 奈良市登大路町 30 奈良県知事公室国際課

TEL：0742-27-8477

FAX：0742-22-1260